

歯医者で働く私の、『マウスピース矯正生活』

～事務長が患者になって気づいたこと～（アライナー 17 / 36）

待望のイベント

マウスピース 5 枚目の時にスマホのリマインダーにセットしておいた、

待ちに待った日。

スマホの通知画面には「17 枚目の交換、IPR（歯と歯の間を削る処置）予定」の文字が光ります。



この約5ヶ月間、10日おきの交換以外は日常のドタバタ劇くらいしかイベントがありませんでした。それに、シミュレーション的にはこれからいよいよ「前歯」が動いていく計画。期待も自然と膨らみます。

意気揚々と先生の手の空いたスキを狙って、「17 枚目の IPR、お願いします 🙏」と直訴。

IPRをする予定も最初の段階でしっかり最後まで決まっているようで、これからも何度か IPR がちょくちょく発生する計画らしい。



自分の歯の形

マウスピース生活を始めて気づいたことがあります。

それは、マウスピースを洗浄したり扱ったりする時に、マウスピース自体そのものであり「自分の歯列を360°客観的に見る機会」がたくさんあるということ。

普段の生活で、食事や歯磨きをしているだけでは全く気が付いていませんでしたが、なんだか「右奥の歯」が水平ではなく明らかにせり上がっている。



当然、前歯の方が「見た目」としての要素が強いので、これまでは

「歯並びの悪さ＝前歯」

ばかりに目がいていましたが、この機会に自分の奥歯の並びを知ることになりました。

そのせいか、マウスピースを装着していると、せり上がっている右側が構造上外れやすく、舌で触って押し上げたりしていると「カポッ」と外れることも。

それがちょっと癖になってしまったり。

不便とかは全く思わないですが、マウスピースという「歯の型」として見ないことには、客観的に見る機会もなかっただろうな、と。

「ふーん、なるほどね」くらいの小さな発見ですが、なんだか面白いもの。

この調子で仕事も右肩上がりに！なんて強引なポジティブ転換。

私を見る私

最近、「世界99」を読破した。

職場の私、友達との私、家族との私、そして、それらを見る私。

「上巻」は、まさにその俯瞰の視点を綴るものだった。

本でも、動画でも、何かと「俯瞰視点で」「客観的に見て」「一步引いて」自分を見ることの大切さを説くコンテンツによく遭遇する。

ふと想定外の事が起きた時、反射的に、感情をそのまま行動に移してしまう。そんなことにならないよう、常に心には余裕を持っておきたいところ。

盲目的な感情と論理的な思考の狭間に、人間らしさを探していきたい。

